

八千代市 第3次環境保全計画（改訂版） 〔概要版〕



八千代市イメージ
キャラクター
「やっち」



八千代市第3次環境保全計画 （改訂版）とは

市民が、健全で良好な環境の恵みを受けられ、その環境が将来にわたって維持されるよう、環境保全に関する総合的な施策・事業を示す計画として策定された八千代市第3次環境保全計画について、温暖化対策や気候変動に関する箇所を中心に一部を見直した計画です。

令和6年3月



八千代市

第3次環境保全計画(改訂版) 見直しのポイント!

ゼロカーボンシティの実現に向けた温暖化対策の強化

地球温暖化対策実行計画-八千代市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)-

温室効果ガス排出量の削減目標の修正

国は、令和3年(2021年)4月、地球温暖化対策推進本部において、令和12年度(2030年度)の温室効果ガスの削減目標を平成25年度(2013年度)比46%削減することとし、さらに、50%の高みに向けて、挑戦を続けていく旨を公表しました。千葉県は国の示す温室効果ガス削減目標を踏まえるとともに、地域特性を考慮し、県全体として令和12年度(2030年度)の排出量を平成25年度(2013年度)比40%削減とする目標を掲げました。このような社会的な変化を受けて、本市の温室効果ガスの排出削減目標も、より高い設定が求められるようになりました。

本市の温室効果ガス排出量の削減目標

本市では、このような社会情勢の変化を踏まえ、以下の通り市域からの温室効果ガスの排出削減目標を設定しました。

前計画

令和12年度(2030年度)
削減目標
(平成25年度(2013年度)比)

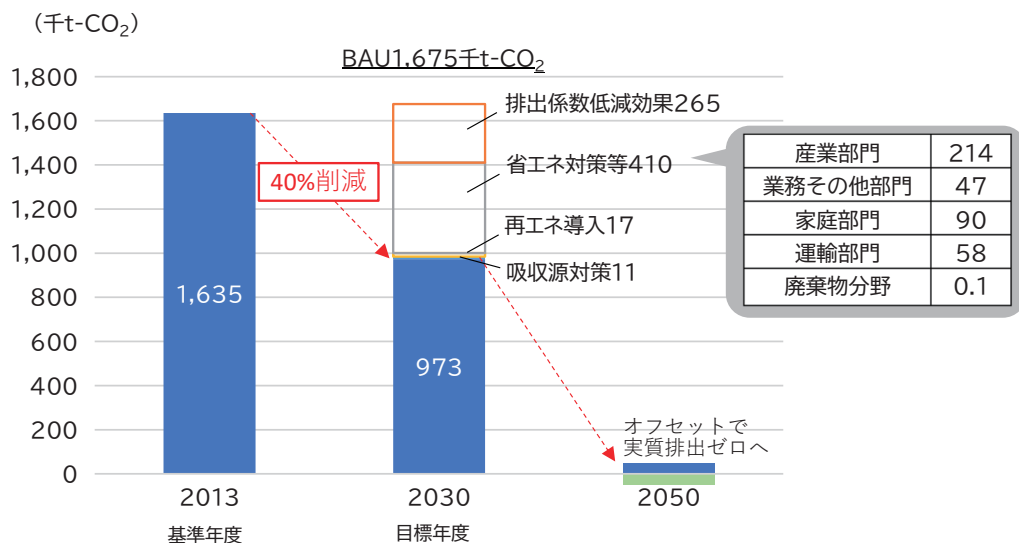
22%削減

改訂版計画

令和12年度(2030年度)
削減目標
(平成25年度(2013年度)比)

40%削減とし更なる高みを目指す

温室効果ガス排出量の削減を進め、目標を達成するために、本市の全ての部門において、市民や事業者・行政などによる脱炭素に向けた行動変容の促進や省エネ型設備機器の導入・更新の促進等、更なる取組の強化を図っていきます。



市域からの温室効果ガス排出量削減目標

八千代市第3次環境保全計画は、令和3年(2021年)3月に策定されましたが、その後、国の温室効果ガス削減目標の変更等を受け、温暖化対策や気候変動に関する箇所を中心に一部を見直しました。

2

地域気候変動適応計画の策定

地域気候変動適応計画-八千代市地域気候変動適応計画-

地域気候変動適応計画について

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、令和3年(2021年)8月から令和5年(2023年)3月にかけて公表した第6次評価報告書統合報告書において、人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がなく、大気、海洋、雪氷圏及び生物圏において、広範囲かつ急速な変化が現れている、さらに、地球温暖化が更に進行するにつれ、極端現象の変化は拡大し続け、例えば、地球温暖化が0.5℃進行するごとに、熱波を含む極端な高温、大雨、一部地域における農業及び生態学的干ばつの強度と頻度に、明らかに識別できる増加を引き起こすと示されています。

今後、地球温暖化の進行に伴いこのようリスクが更に高まることが予想されていることから、気候変動に対処し、生命・財産を将来にわたって守り、経済・社会の持続可能な発展を図るために緩和策(温室効果ガスの排出削減等対策)に全力で取り組むことはもちろん、現在生じており、また将来予測される被害の回避・軽減等を図る「適応策」に取り組むことが重要となっています。

本市では、気候変動適応計画として、本市の自然的特性、社会的特性を踏まえて気候変動の影響を回避・軽減する取組について、計画的に推進していきます。

基本施策 1-4 気候変動に対する適応策の推進

〈 具体的な施策 〉

- 1) 気候変動に関する情報収集・提供
- 2) 農業への影響軽減に向けた取組
- 3) 水環境・水資源等への影響軽減に向けた取組
- 4) 自然生態系への影響軽減に向けた取組
- 5) 自然災害の影響軽減に向けた取組
- 6) 健康への影響軽減に向けた取組
- 7) 国民生活・都市生活への影響軽減に向けた取組

基本方針 1

緩和とは?

原因を少なく

緩和策の例

- 節電・省エネ
- エコカーの普及
- 再生可能エネルギーの活用
- 森林を増やす

温室効果ガスを減らす

適応とは?

影響に備える

適応策の例

- 熱中症予防
- 災害に備える
- 水利用の工夫
- 感染症予防のため虫刺されに注意
- 高温でも育つ農作物の品種開発や栽培

気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること(緩和)が重要です。

緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと(適応)が重要です。

適応策と緩和策について

出典：気候変動適応情報プラットフォーム

八千代市が目指す環境の将来像

環境の

人・まち・自然が調和した快適な暮らし

基本方針 1



地球温暖化対策を推進し、
脱炭素型まちづくりを進めます

〈 現状と課題 〉

- 本市の気温の年平均値は、過去 30 年で約 1.7℃ 上昇しており、気候変動による気象災害や熱中症などの健康被害、農作物への被害が想定されています。
- 本市の温室効果ガスの排出量は近年減少傾向にありますが、ゼロカーボンシティの実現に向け一層の省エネの取組推進・再エネの導入が不可欠です。

〈 方針 〉

- ◇ 市民、事業者、行政など全ての主体が一体となって地球温暖化対策に取り組むことで、気候危機に立ち向かい、持続可能な脱炭素社会の実現を目指します。

〈 基本施策 〉

- 1-1 脱炭素型まちづくりの推進
- 1-2 再生可能エネルギー等の導入推進
- 1-3 市民・事業者の地球温暖化対策・省エネルギー活動の促進
- 1-4 気候変動に対する適応策の推進

基本方針 2



地域資源を最大限活用し、
循環型社会の形成を推進します

〈 現状と課題 〉

- 令和2年度(2020 年度)に実施した市民アンケートより、多くの市民にリサイクル、ごみの減量化の取組が定着していることが分かりました。
- 一方で、本市のごみの排出量は、平成 30(2018)年度以降、増加傾向が続いており、またリサイクル率は、県平均を下回っています。

〈 方針 〉

- ◇ 限りある資源の大切さを認識し、循環的に利活用することで、環境への負荷をできる限り低減する循環型社会の形成を目指します。

〈 基本施策 〉

- 2-1 4Rの推進
- 2-2 廃棄物の適正処理の推進



基本方針 5

環境保全のための人づくり・地域づくりを推進します



〈 現状と課題 〉


- 環境保全に取り組むには、一人ひとりの環境に対する意識が必要です。
- 上記の市民アンケートでは「学校での環境教育の充実」が今後重要だと考える市民が多いことが分かりました。
- 一方で、市民において、地域の環境保全活動への参加率や市の取組の認知度は低いことが分かりました。

環境保全に取り組むため、市民・事業者・市などの共通ビジョンとなる環境の将来像を定めました。また、5つの基本方針を設定し、環境の将来像の実現を目指すとともに、SDGsの達成に貢献します。

将来像

未来へつなげよう 持続可能な都市 八千代

基本方針 3



安全で快適な生活環境を保全します

〈 現状と課題 〉


- 本市の河川や地下水の水質は、環境基準を超過する箇所があり、左記の市民アンケートでは「水のきれいさ」に関する市民の評価が低いことが分かりました。
- 本市の大気環境は、光化学スモッグ注意報がほぼ毎年発令されるなど環境基準未達成の状態が続いています。

〈 方針 〉


- ◇ 安心して健やかに、快適に暮らし続けられる環境を維持します。

〈 基本施策 〉

- 3-1 大気汚染、悪臭、騒音・振動対策の推進
- 3-2 水循環の確保と水環境の保全
- 3-3 地質環境の保全



基本方針 4



豊かな水・緑を保全し、自然と共生するまちづくりを進めます

〈 現状と課題 〉


- 本市は首都圏にありながら、谷津・里山を特徴とする豊かな自然が残されており、市では地権者、市民団体などと連携して、谷津・里山の保全・再生を行ってきました。
- 左記の市民アンケートでは「豊かな緑」に関する市民の評価が高いことも分かりました。
- 一方で、本市は人口増加とともに宅地化が進み、山林、田、畑などは減少しています。

〈 方針 〉

- ◇ 谷津・里山をはじめとする豊かな自然環境を保全し、その恵みを活用し、人と自然が共生するまちを目指します。

〈 基本施策 〉

- 4-1 谷津・里山等の保全
- 4-2 生物多様性の保全
- 4-3 グリーンインフラの整備と活用
- 4-4 自然とふれあう機会の創出



〈 方針 〉

- ◇ 全ての人が環境保全に取り組み、繋がって新しい価値を生み出し、持続的に発展するまちを目指します。

〈 基本施策 〉

- 5-1 環境教育・環境学習等の推進
- 5-2 市民(団体)・事業者との協働による地域環境保全の推進
- 5-3 環境と経済の好循環の推進
- 5-4 地域間交流・協力の推進

戦略的・重点的に推進する取組

分野別の環境施策の中から特に重要または効果的なものを組み合わせ、3つのプロジェクトを推進していきます。

環境の将来像を実現するための戦略的・重点的に推進する取組

1 ゼロカーボンシティ推進プロジェクト

〈事業概要・ねらい〉

2050年に温室効果ガス排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を実現するためには、人々の生活や企業の事業活動における徹底した省エネルギーと再生可能エネルギー等の積極的な活用が重要となります。快適な暮らしを維持しつつ、温室効果ガス排出削減を確実に進めるために、以下の施策を展開していきます。

〈具体的な事業〉

- 1) 3E+S(省エネ・創エネ・蓄エネ)の推進
- 2) バイオマスエネルギーの利用促進
- 3) グリーンビルディングの推進
- 4) 水・緑を活用したまちづくり



基本方針 1

基本方針 2

基本方針 4

基本方針 5

2 谷津・里山保全・活用プロジェクト

〈事業概要・ねらい〉

本市の特徴的な自然である谷津・里山を市民、土地所有者、事業者、市が協働して保全・再生する事業を進めるとともに、谷津・里山の持つ多面的な機能や価値を活用する事業を実施します。

〈具体的な事業〉

- 1) 谷津・里山の多面的機能の維持・保全
- 2) 多様な主体の参加による谷津・里山保全の推進
- 3) 谷津・里山を活用した環境学習・教育の推進
- 4) 谷津・里山の活用・交流促進



基本方針 1

基本方針 3

基本方針 4

基本方針 5

3 環境にやさしい人づくりプロジェクト

〈事業概要・ねらい〉

市民・事業者の環境に対する関心・理解を深めるため、環境学習・環境教育の充実を図り、次世代に良好な環境を引き継ぐことのできる環境にやさしい人づくりを推進します。

〈具体的な事業〉

- 1) 地域資源を活用した環境教育メニュー・教材の検討
- 2) 多様な環境保全の担い手・環境ボランティア講師の育成



基本方針 3

基本方針 4

基本方針 5

わたしたちにできること（行動指針）

八千代市の環境を保全するためには、市が施策の推進に努めるとともに、市民・事業者の皆さんの積極的な参加と協力が必要です。ライフスタイルや事業活動を見直し、環境への負荷の低減や身近な環境を保全するための行動に取り組みましょう。

市民

- ✓ 日常生活を送る上で自分に合った環境にやさしいライフスタイルを考え、実践します
- ✓ 自動車の利用はできるだけ控え公共交通機関を利用し、また自動車を利用する際にはエコドライブに努めます
- ✓ 環境家計簿を活用するなどして、毎日の生活でどの程度の温室効果ガスを排出しているかを把握し、省エネルギーをはじめとした環境負荷を低減させる取組を実行します
- ✓ 使い捨て商品の使用を控え、マイバッグ等を持参するなどにより日々の暮らしの中で廃棄物を削減します
- ✓ 環境教育や環境学習の場に積極的に参加し、身近な環境から地球環境まで様々な環境問題について関心を持ち、継続的に学ぶように心がけます
- ✓ 良好な街並みや谷津・里山をはじめとする豊かな自然環境を維持するために、地域の環境保全活動に積極的に参加します

事業者

- ✓ 環境への負荷を低減するため、事業内容、事業所の形態に応じた環境マネジメントシステムの導入とその実践に努めます
- ✓ 電気、ガス及び自動車燃料の使用量の削減に努めるように日々の業務を通じて環境に配慮します
- ✓ 廃棄物の排出抑制、循環資源の再使用・再利用、熱回収に努めます
- ✓ 工場等の敷地や建物は、周辺環境との調和を図るとともに、敷地内の緑地確保、屋上や壁面の緑化などにも配慮します
- ✓ 事業活動を通じて発生する騒音や悪臭などの発生を極力抑えるように努めるとともに環境に配慮した技術や製品の活用を検討します
- ✓ 社内において環境教育・学習の機会を設けるとともに、地域住民との協働による環境保全活動への参加促進に努めます

市

- ✓ 市民・事業者・市の各主体が各々の役割に応じた環境配慮行動を実践し、地球温暖化対策、循環型社会の形成に向けた取組、身近な環境保全のための活動に参加できるよう、協働による取組を促進します
- ✓ 市も1つの事業所・消費者でもあるという立場から、省エネルギーをはじめとした環境負荷を低減させる取組を実行します
- ✓ 施策の進捗状況を定期的に点検・評価し、関連施策の見直し、推進を図ります
- ✓ 市が行う契約及び物品やサービスの購入に当たっては、環境への負荷の低減に資するようグリーン購入を推進します
- ✓ 古紙等の分別排出を徹底し、用紙類の資源化・リサイクルに努めます
- ✓ 庁舎等で使用する電気、ガス及び自動車燃料の使用量の削減に努めるように日々の業務を通じて環境に配慮します
- ✓ 職員は、清掃活動等の地域活動に参加するとともに環境配慮の普及啓発に努めます
- ✓ 谷津・里山など地域環境への関心を促し、環境保全活動への参加を促すため、市広報誌、市ホームページ等を活用し、学校等の教育機関、自治会、市民活動団体への情報発信を行います

わたしたちにできること（例）

環境への負荷の低減や身近な環境を保全するため、できることから始めてみましょう！

<p>移動は公共交通機関 を利用する</p>	<p>マイバック等を持参する</p>	<p>再使用・再利用に努める</p>
		
<p>電気、ガスの節約 を心がける</p>	<p>緑を育てる・保全する</p>	<p>自分が出した 温室効果ガスの量を知る</p>
		
<p>環境に配慮した技術や 製品を導入する</p>	<p>地域の環境について学ぶ</p>	<p>地域の環境保全活動に 参加する</p>
		

脱炭素につながる働き方や暮らしなど、新しい生活スタイルを「デコ活」と称して、国は自治体や企業と連携して推進しています。環境省のデコ活ホームページでは、様々な取組が掲載されていますので、デコ活ホームページを参考にできることに取り組みましょう。
デコ活ホームページはこちらのQRコードから➡



八千代市第3次環境保全計画〔改訂版〕概要版

発行日：令和6年3月

発行：八千代市

編集：八千代市役所

経済環境部環境保全課環境政策室

〒276-8501

千葉県八千代市大和田新田 312-5

Tel 047-421-6767

